

文芸コーナー

短歌
山茶花の白き花びら音もなく散る夕ぐれのものさびしけれ
送られし林檎の礼の電話にて互ひに病の語になりぬ
魔除けにて門近く植ゑし終白く小さき花あまた咲く
ひたすらに赤児の様を見てをれば五体暫しもとどまらざりき
今日もまた地下足袋履きての身拵へ畑仕事はこれが一番
俳句
銀杏散る並木のさきに絵画館
みちのくの川の鈍色冬来る
一湾の光集めてうる目干し
空白を埋める術なし古日記
一叢のすすきのための青い空

俳句

田口 三石選

短歌

加藤恵美子選

<短歌・俳句をお寄せください>

一人一首または一句で未発表のもの。毎月20日締め切り(必着)です。投稿は、住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、秘書広報課広報広聴班まで。

ほっとレポート



広報レポーター:清水 武彦(小林)

今回、訪問した学校は全校児童430人の滝野小学校(押田香代子校長)です。閑静な住宅街に隣接した明るく、清掃の行き届いた学校です。教室はオープンスペースで広々として、児童たちが伸び伸びと勉強が楽しめる環境にあります。授業を見学したクラスは23人の5年2組です。グッドモーニングと元気な声で児童に話しかけるマムーン先生はアフリカ、ガーナ共和国から10年前に来日したALT(外国語指導講師)。



▲表現豊かなマムーン先生

また外国人から直接学ぶことで自然とネイティブな発音や抑揚が耳に入ると同時に、外国人と面と向き合うことで度胸ができ、苦手意識も払拭されるということです。授業では、先生は聞くことに重点を置き、何度も「こちらを見て」とゆっくりと大きな声で話しかけ、黒板に日本語と英語で書かれたパ

績は日本の三分の二を有し、周囲を3カ国に囲まれたギニア湾に面した国です。そんな国から赴任されたマムーン先生の授業を拝見すると教室全体が活気に溢れています。「小さい時からの英語教育は、文法や発音というよりも、楽しんで興味をもってもらうことが大切」と先生は言います。



▲あいさつの練習をしている様子



▲授業のはじめに準備体操を行います

最後に、先生に印西市の印象を伺ったところ、市民のみなさんに大変親しくしていただいていること、自然環境がどこよりも優れていることを挙げていただきました。その後、先生は宿題を出し、家庭で両親や兄弟をパートナーとしてあいさつや自己紹介の練習をすることで、次の授業に繋げていくことを提案しています。そうなるとうナイ役の人も大変だとお察しします。

掲載情報は12月18日現在
■クリーン推進課クリーン推進班(☎内線383)

リサイクル情報広場

◆ゆずりませ情報

- ① 犬の洋服② 小林中学校女子制服(冬服、夏服及びジャージ)③ 本棚④ ダイニングテーブル・椅子4脚⑤ シングルベッド⑥ ダブルベッド⑦ ソファ(2人用)⑧ スキー板・ストック・スキー靴⑨ ガラスケース入りわらべ人形。

◆さがしています情報

- ① 補聴器② 英(はなぶさ)幼稚園の制服および体操着③ 天神幼稚園男児制服・体操服④ しおん幼稚園体操服(半袖)⑤ 木刈小学校体操服上下⑥ 木刈小学校ジャージ上⑦ きかり幼稚園体操服長ズボン・半ズボン⑧ 高花小学校運動着⑨ ジグザグ縫い機能付きミシン⑩ ベビーベッド⑪ ミシン。

※詳しくは市ホームページをご覧ください

毎月5日は「ノーレジ袋デー」です。お買い物にはマイバッグを持参しましょう。



施設がいと



広報レポーター: 瀧野 昭造(瀧野)

本笠消防署

本笠支所に併設する本笠消防署(笠神2578番地)の消防車と救急車が私たち取材班を迎えてくれました。櫻井署長と田代副署長に施設を案内してもらい、



▲出動に備えてロッカーは常に整理されています

お話しを伺いました。本笠消防署は昭和48年7月に印西市消防署本笠出張署として発足。平成3年4月に印西市消防署本笠分署に昇格し、平成25年10月に現在の本笠消防署になりました。水槽付消防ポンプ自動車、高規格救急自動車、連絡用車両を一台ずつ配備。印西市地区消防組合に所属する248人の職員のうち同消防署には23人が配属され、本

●平成25年1月~12月 出動件数表(本笠消防署)●

Table with 2 columns: 種類 (種類) and 件数 (件数). Rows include 火災出動 (27件), 救助出動 (12件), その他災害 (95件), 救急出動 (524件), 消防訓練立ち会い (22件), 救命講習、応急手当講習 (12件).

本笠地域の消防団と協力して活動しています。活動範囲は、本笠消防署管轄区域であり、昨年出動した件数は左表のとおりです。火災出動27件のうち20件は、管轄区域外の地区に出動しています。訓練については、救急出動を想定した隊員間の連携訓練、機関員(運転手)の操縦訓練などを実施しています。また、

解体予定の建物を利用した実践的な災害現場訓練や、印西市消防署など訓練施設のある消防署に向いて訓練を実施しています。さらに今年度は、市内で初めて小学六年生を対象に、AEDを使用した救命入門コースを実施するなど、小さいころから体験し、育てる取り組みを行いました。同管轄区域には急傾斜地があるため、大地震や台風、集中豪雨などの災害に備えて、広報や戸別の電話連絡で注意喚起や現場確認を行っています。また、毎年六月には県と市が連携して急傾斜地の調査を実施しています。本笠消防署の高規格救急自動車は、緊急消防援助隊と千葉県広域消防援助隊の車両として登録されており、



▲本笠支所に併設された消防署の外観

県内外で火災が発生した際には出動計画に基づき応援などの活動も実施しています。東日本大震災では緊急消防援助隊千葉県隊として、本笠消防署の救急車も福島県に出動しました。24時間体制で私達の生活を守る本笠消防署関係者に敬意を表したいと思います。